

◆基調講演◆

皆さん、こんな姿を見るとどんな風に感じますか。

田や畑で働いているお年寄りを見ると、私は涙が出てきます。

お年寄りは日本を作ってきた人たちですよ。

「田舎には生活するのが大変だ、都会に行きなさい」と子どもに言います。

孫が生まれると一緒に住みたいと思っているけれども、都会に住みなさいと言います。

小さな田畑で野良仕事をして、採れた作物を子や孫に送り届けているんです。

寂しさにじっと絶えながら、子どもの幸せを祈っているんです。

こんなこと考えたことがありますか。お年寄りをいじめていませんか？

次は年金問題ですよ。

年金問題で若者達の負担が増えてくると言って大騒ぎしています。

マスコミが、学者・識者が話しています。私は心底腹が立っています。

年金問題で若者達の負担が増えることを否定しません。

でもまずは、「ありがとう」という言葉ではないですか。

日本を支えてきたお年寄りが、人生の最後を寂しく去っていくことに、私は腹が立ち、黙っておれません。

農村の再生、自然環境の復元。このことを私の最後の戦いにしようと思っています。私の人生最後の宿題になるとしています。

荒廃していく農村、自然環境が汚染されていく農村、これをどう復元していくかをまとも
に考え、行動していく人が何人いますか？

本当に考えていく人が何人いますか？

正直言って行動を起こす人は少ないです。これが日本の現実なんです。

ごめんなさい こんなことばかり言って。

私は鹿児島大学を早くやめて、縁合ってこの竹子^{たかぜ}に住み着いたんです。

妻も賛成してくれました。

竹子はどこにもあるような農村です。

私の住んでいる竹子のことをお話ししますと、世帯数は約450世帯で、約1,200人が住んでいる小さな集落です。

私は、そこに約10町歩ほどの田圃を持っており、その一角



に住んでいます。

鹿児島大学の副学長時代「環境共生プロジェクト」に関わり、そのプロジェクトの責任者になりました。

正しい理屈を言っても人はついてきません。
飲ミネーションです。これが大切なんです。

これをすると農家の人はずうち解けて、本気で話をしてくれます。

学者はデータばかり取って話をするが、そこに住んでいる人のことは分かりません。

私はここで飲んで、泊まって大学に行ったこともあります。

「先生が言うから、やってみるか」「先生が言うから、やってみて考えよう」

人間は理屈では動かず、情で動くんです。

大久保（利通）さんは理論派で、西郷（隆盛）さんは情の人です。

情が人を動かすということがよく分かります。



集落の総会での飲み方は楽しいです。歌ったり、踊ったりします。

以前飲み方が始まる前、唱歌「故郷」^{ふるさと}を歌わなくなった話をしたことがあります。

そうしたら、飲み方の最後の方で万歳三唱かと思っていたら、歌おうと言われました。

そして歌ったんです。おばあちゃん達は3番

までちゃんと歌いましたが、男性はだめでした。

唱歌「故郷」を何回も何回も歌ったんです。そこでこのプロジェクトのテーマソングは「故郷」なんだ、「故郷」を目指すんだと思いました。

久しぶりに歌ったんでしょうね、おばあちゃん達は目に涙を浮かべて歌いました。

プロジェクトの看板を「故郷」^{ふるさと}として再出発しました。

私の家の居間からは水田が見え、合鴨が泳いでいるのが見え、観察も出来ます。

霧島連山も見えます。正面に韓国岳が見えます。

◆基調講演◆

私は今、次の5つのことを目標にやっています。

1. 高度な知識や技術を教えてくれる所はたくさんあるが、人を育てることを忘れているので、人を育てるために竹子農塾を開設しました。
2. 都市との連帯を図るために田主制度を始めました。
3. 作物の流通を図るために直売所「竹子の里きらく館」を開店しました。
4. 学生サークルの支援を始めました。

集まってくる学生達は本気です。私もやる気が出ました。

雨で濡れてしまっている稲を、20人ぐらいでやってきて脱穀を手伝いました。

出来たお米を大学祭で販売して、サークルの活動資金にするんだそうです。

5. 研修生の受入を始めました。後継者を育てようとしています。

竹子農塾(たかぜのうじゅく)は、今222人の塾生がいます。



今は理論学習中心ですが、近くのレストランに夜集まって勉強しています。

講師には無料で講演をしてもらっています。

何人かの講師から「ただほど高いものはない」と皮肉を言われたこともありました。

17回まで進んだんですが、妻が難病になってしまって塾を続けられなくなりました。

塾を辞めると言ったら、学生からブーイングが出ました。

自分たちは「先生の考え方を聞きたいからここに集まったんだ」「先生は今まで何も話をしていないじゃないか」と。私は5~6回話をしました。

田主制度は、棚田を復活して貸し出します。



写真は田植えをしているところです。外国人学生も来ます。

子ども達を見ていると、たくましいです。将来が楽しみです。

竹子の里きらく館を立ち上げた写真です。

きらく館は補助金なしで7年前に立ち上げた小さなお店です。

事業費720万円は竹子共正会が資金を出し、入会金は5,000円です。

組合員は現在68人おり、全部自分たちの力で造りました。

皆さんつぶれる、つぶれると期待？していましたが、つぶれないです。

新鮮な野菜です。しかも全部100円です。

安いと怒っているのは私だけです。もっと高くして売ったらと言っても、高くしません。

この写真は私が作ったお米（合鴨・棚田米）です。1kg700円で皆さんが買っているお米の2.5倍します。

店の奥にはお茶コーナーを作りました。

皆さん「狭い上にお茶コーナーを造るとは」と反対しました。しかしこれが店の理念です。

これが大事なんです。

お客さんは何も買わないで帰る人もいますが、レジの人が声をかけるんです「お茶を飲んでいきませんか」と。



お茶を飲んで帰るときには買って帰るんですね、これが人間の情なんです。

商魂たくましくやったんではありません。

店には組合員さんの名前を掲げています。どんなことがあっても店は責任を取りません。

問題が起きたらお客さんと組合員さんとで解決するようにしています。

学生の自主サークルは条件の悪い棚田でお米を作っています。頑張っています。

次の後継者達が育ち始めていると感じています。

農業をやりたいと私の所にいろんな人がやってきます。家族全員でやってきて、廃屋に住み着いてやっています。

私は竹子の地に、リンカーン大統領の言葉をもじった訳ではないですが、「農家の 農家による 農家のための 学校」を造りたいと思っています。

他人様に任せない後継者を作りたい。志の高い人を育てたい。

単に農業経営や技術だけを教えるのではなく、自分のことだけでなく、他者を想い、日本のこと、世界のことを想いやる人を。

自分の幸せだけでなく、皆の幸せを統一出来る人を。

農のある暮らしの出来る人、地域の人たちをまとめることの出来る人を育てたいと思って

◆基調講演◆

います。

最後になりましたが、今日はハーモニカを持ってきて、皆さんと一緒に歌って貰いたかったんですが、午前中脱穀で忙しかったものですから、ハーモニカを忘れてきましたので歌えません。

何かの機会に唱歌「故郷」を思い出して歌っていただければと思います。

今日は貴重な時間をありがとうございました。